

グローバル共創科学部 数理データサイエンス教育プログラム

自己点検・評価書

静岡大学 グローバル共創科学部

「数理データサイエンス教育プログラム」令和 5 年度開講状況について以下の評価項目に沿って自己点検・評価を行った。

1. 教育プログラムの点検・評価

点検項目 1. 教育プログラムを構成する科目について、本学のガイドラインに基づきシラバスに必要事項が記載されているか

点検結果：本学では授業目標、授業計画、評価方法を明記することを求めた「シラバスの手引き」を教員に配布してシラバスの記載について方針を示している。本プログラムを構成する学部開講の授業科目においても、この手引きに沿って記入することが求められている。教育プログラムを構成する令和 5 年度の本学部開講の「基礎数学」「データサイエンス基礎」「データサイエンス演習」のシラバスの点検を行い、ガイドラインで示されている各項目が記載されているかどうか等の確認を行った。

評価：すべての科目において、ガイドラインで示されている各項目が記載されており問題ない。

点検項目 2. 教育プログラムを構成する科目について、単位取得状況、学生の履修状況

点検結果：令和 5 年度の学修状況について単位取得率のデータ用いて分析、点検を行った。「基礎数学」「データサイエンス基礎」「データサイエンス演習」は必修科目であるため履修率は学部所属学生については 100% である。科目ごとの単位取得率を分析したところ、「基礎数学」は 100%，「データサイエンス基礎」は 90.4%，「データサイエンス演習」は 90.4% であった、「基礎数学」においては、補習クラスも設定され、学生が予習復習で適切に学べ

ていた。「データサイエンス演習」においては、Google Colaboratory で作成した教材を用いて繰り返しの学習が可能であった。

評価：単位取得状況においては、大きな問題はないと評価できる。しかし、「データサイエンス基礎」と「データサイエンス演習」の単位取得率をさらに向上させるため、令和 6 年度に教務委員会で学修支援について検討を行うこととした。

点検項目 3. 学生の学修を支援する体制は整っているか

点検結果：「基礎数学」「データサイエンス基礎」「データサイエンス演習」について学修支援体制について点検を行った。「基礎数学」については、数学を専門とする大学院生 TA の補助をつけた補習クラスを設定し、学生の学修支援を行っている。「データサイエンス基礎」「データサイエンス演習」についても、データサイエンスを専門とする大学院生 TA を配置し学生の学修支援を行った。

評価：科目ごとに補習クラス、専門知識を持つ大学院生 TA を活用した個別の支援体制が整えられており問題はないと評価できる。

点検項目 4. 教育プログラムの成果について、学内外に公開されているか

点検結果：教育プログラムの目標や授業内容については、学部 Web ページ、シラバス等で適切に公開されている。数理・DS・AI 教育に関する学修履修状況の成果については、すべての科目が開講された後、Web ページで公開を予定している。

評価：教育プログラムについての情報発信や学内外への周知については、様々なチャネルで行われている。現時点での成果については学内外に広く公開されていると評価できる。

2. 令和 5 年度の教育プログラムの評価の総括

令和 5 年度に設置された新しい学部であることから、令和 5 年度は 3 科目を学部科目として開講し、これらの 3 科目についての点検・評価を中心に教育プログラムの評価を行った。3 科目は、講義・演習の対面科目として開講されている。受講生の履修状況や単位取得状況および学修状況の調査結果等をふまえると、教育活動は大きな問題なく行われており、

継続して数理データサイエンスの考え方を広く学生に浸透させることはできていると評価できる。令和 6 年度以降に関しては、新たに開講される科目についてモデルカリキュラムに準じた教育活動を行うことが望まれる。